



CSR REPORT 2015

コーセー CSRレポート



KOSÉ

株式会社 コーセー

東京都中央区日本橋3-6-2 〒103-8251
TEL:03-3273-1511(代表)
URL: <http://www.kose.co.jp>

コーセーのCSRに関するウェブサイトは、
こちらよりご覧いただけます。
<http://www.kose.co.jp/jp/ja/company/csr/>

コーセー CSR 検索



一部のスマートフォン端末、携帯電話では
読み取れません。
通信費は、お客さまのご負担になります。

サステイナブルな成長と未来のために

コーセーの創業は1946年。創業者の小林孝三郎は、人々に夢と希望を与える化粧品に限りない情熱を込めて事業をスタートしました。お客さまに心からご満足いただける優れた品質の化粧品をつくり、一人ひとりに手渡す気持ちでお届けしたいという強い信念のもとで経営にあたってきました。この想いは現在まで脈々と受け継がれています。研究開発や品質への強いこだわり、きめこまかな販売体制、お客さまの求める多様な価値観に対応する独自のブランドマーケティングなどは、全て創業者の理念を具現化したもので、これらが現在のコーセーの強みでもあり発展の原動力ともなっています。

私は2007年の社長就任以来、当社のこうした伝統を継承しながら、さらなる顧客価値の創出と、グローバルな成長を遂げるためのチャレンジを続けてきた結果が、今後のさらなる

成長の原動力となりつつあることを実感しています。これからは成長のスピードを上げ、さらなる飛躍へ向けて、“ボーダレス視点”をキーワードに、「世界に通用するブランドの育成」と、「経営資産の継続的なパフォーマンス向上」を基本戦略として、これまでの延長線上にない成長を続けることで、グローバルな存在感あるコーセーを目指しています。

今後も長期的な成長を続けてゆくためには、その基盤となる社会や地球環境が、健全かつサステイナブルであることが大前提です。グローバル社会の一員として、我々もそのために責任を果たしてゆかねばなりません。そこで当社は、CSR委員会、リスクマネジメント・コンプライアンス委員会を設け、「美しい知恵 人へ、地球へ。」「正しきことに従う心」という当社のCSR基本指針にもとづく、組織横断的な活動に取り組んでいます。

なかでも「美しい知恵 人へ、地球へ。」を実践する活動といえる「SAVE the BLUE」プロジェクトでは、沖縄のサンゴを救うために、今年発売30周年を迎えた『雪肌精』の売上の一部をサンゴ移植のために寄付しており、今年で7年目となりました。このプロジェクトの長所は、社員はもちろんお客さま、ご販売店様など大変多くの方に、キャンペーンや沖縄での「サンゴ留学」を通じて、海の環境問題に向き合う意義を理解していただき、活動の広がりの力となっている点です。海外においても、今年度はアジアの6の国と地域に、「SAVE the BLUE」の環境保全活動が広がっています。

当社は2016年3月に創業70周年を迎えます。節目の年に、その先にくる素晴らしい未来を見つめ、当社ならではの取組みを続けてまいります。



代表取締役社長
小林 一俊

CSR基本方針

美しい知恵 人へ、地球へ。
正しきことに従う心

編集方針

コーセーグループでは、2000年より「環境報告書」を発行し、2005年からは「社会・環境報告書」、2013年からは「CSRレポート」として、ステークホルダーの皆様へ当社グループの取組みをご紹介します。今回より、当社にとって重要なCSR課題を選定し、その項目に沿った内容を、冊子とウェブサイトで公開しています。冊子にはステークホルダーの皆様からの関心が特に高いものを取り上げ、ウェブサイトには環境会計など専門性の高い内容を含んだ網羅的な情報を掲載しています。

対象期間

2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)

※一部対象期間以外の情報も掲載しています。

対象組織

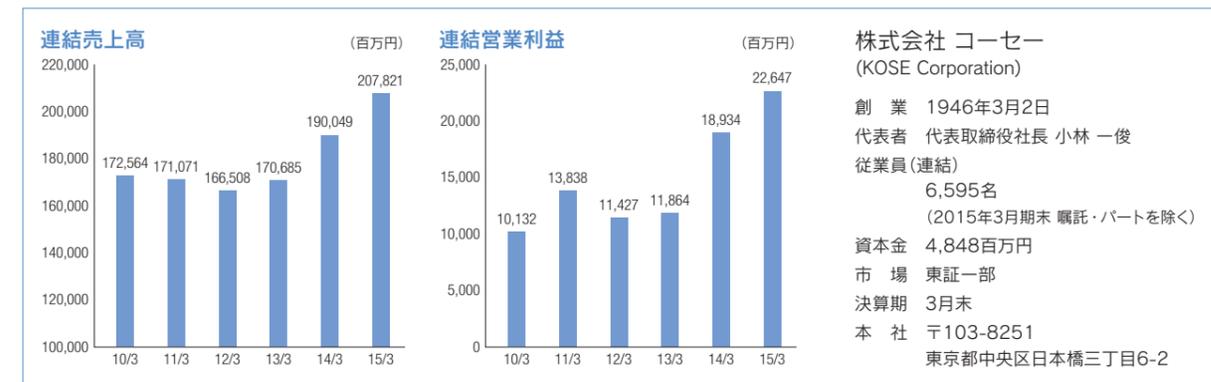
コーセーおよびコーセーグループ会社の活動から記載

参考ガイドライン

- GRI「サステナビリティレポートガイドライン第4版」
- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

コミュニケーションツールの構成

本レポートに加え、当社の特徴をご紹介します「CORPORATE PROFILE」、最新年度の財務情報を中心にまとめた「ANNUAL REPORT」を発行し、それぞれウェブサイトでも情報を公開しています。ステークホルダーの皆様へ、当社の考え方や取組みを、タイムリーにわかりやすくお伝えすることを心がけています。



Contents

- トップメッセージ P.02
- Close up 1 美しい知恵 人へ、地球へ。「SAVE the BLUE」プロジェクトでアジアの環境を守る P.04
- Close up 2 東日本大震災復興応援「fukushima さくらプロジェクト」で福島・東北を応援 P.06
- 01 美の創造企業として、安心・安全を最優先に P.08
- 02 省資源・省エネルギーで地球環境を守る P.11
- 03 CSRサプライチェーンマネジメントの実践 P.14
- 04 人材育成と職場環境の整備に努める P.16
- 05 地域社会との調和と共生をめざして P.18
- 06 CSRマネジメント P.20
- CSR活動目標一覧 P.22

ウェブサイトもご覧ください
 CSRの詳細な情報を公開しています。
<http://www.kose.co.jp/jp/ja/company/csr/>



Close up 1

美しい知恵 人へ、地球へ。

「SAVE the BLUE」プロジェクトでアジアの環境を守る

世界有数の美しさを誇る沖縄のサンゴ礁ですが、地球温暖化の影響により絶滅の危機にさらされています。コーセーは、青く美しい地球を未来につなげるため、2009年の夏から「SAVE the BLUE」プロジェクトをスタートさせました。7年目を迎えた現在、日本だけでなくアジア全域へ活動範囲が広がっています。

美しい海を守るために、いま私たちができること

「SAVE the BLUE」プロジェクトでは、多くのお客様からご愛用いただいている『雪肌精』を通じ、継続的な環境保全活動を行っています。プロジェクトの名称には、ブランドを象徴するボトルの「瑠璃色」から連想される「美しい海」を次世代につなげたいという願いが込められています。

日本国内の「SAVE the BLUE」プロジェクトでは、多様な海洋生物の大切なすみかであり、また温暖化の原因となる二酸化炭素の吸収機能もあるサンゴの保全に協力しています。沖縄本島付近の海のサンゴ礁は、温暖化による白化現象やオニヒトデの発生等が原因となり、近年大きく減少してしまいました。コーセーでは、過去6年間で8,389本のサンゴの移植費用を寄付しました。海外へ活動の範囲を広げていく中では、地域ごとに必要な環境保全活動をふまえ、多種多様な取り組みをしています。

日本での2015年度の活動

雪肌精30周年 SAVE the BLUEプロジェクトは7年目へ

夏のキャンペーン期間中、対象の雪肌精商品をお買い上げごとに、その底面積分のサンゴを植えつける費用を沖縄の有限会社「海の種」に寄付します。

対象期間 2015年7月1日～8月31日
対象商品 雪肌精シリーズ 化粧水・乳液(雪肌精、雪肌精 シュープレム、雪肌精 エクストラ)
※ミニミニ除く

雪肌精 化粧水仕立て 石けん
雪肌精 サンプロテクト エッセンス ジェルN
雪肌精 サンプロテクト エッセンス ミルクN
雪肌精 ホワイトBBクリーム



2014年は、11,230,216cm²の“サンゴの森”が広がりました。サンゴ移植本数は1,841本でした。※25m公認プール 約2.9倍
2009年～2014年累計
50,578,685cm² 25mプール 約13.4倍
サンゴ移植本数8,389本 ※すべてのサンゴが定着するわけではありません。

サンゴ畑付近の海洋で産卵されたサンゴは、海の種のデータによると30kmほど離れた名護付近の海域まで流れているのが観察されており、本プロジェクトの成果が期待されています。(「海の種」のデータより)

タイ

海洋生態系の保護とウミガメの繁殖のためにタイ政府が設置した「タイ海洋・沿岸資源研究センター」に協力し、繁殖したウミガメの放流を行いました。タイでは経済成長とともに海洋汚染が進み、ウミガメの大量死を引き起こしているとして問題となっています。



Director of Marine and coastal resources research and development center
The eastern gulf of Thailand
Suthep Jearlaong 氏



ウミガメは海の生態系にとって大事な存在であり、絶滅すると他の海洋生物にも悪影響を与えます。ウミガメの減少は深刻で、このままでは近い将来絶滅してしまいます。今回コーセーと一緒に海洋生態系の保全活動をサポートする機会をいただき、感謝しています。

マレーシア

NGO組織 Reef Check Malaysiaによる、マレーシア半島東岸に浮かぶTioman島サンゴの保全活動を行っています。2012年に植えつけたサンゴの生育状況をモニタリングし、周辺住民や観光客への教育プログラムとしても活用されています。



海がきれいになるスポーツ “クリーンピック”

「サング留学」プログラムの中では、清掃活動をスポーツとして楽しむ「クリーンピック」にも挑戦しました。決められた時間内で、チームごとに砂浜に打ち上げられたさまざまなゴミを拾い集め、環境に与える負荷によって順位を決定します。参加者からは「思いのほか大きなゴミが多くて驚いた」といった声があがっていました。



ゴミは缶やペットボトルのような飲料容器だけでなく、毛布などの生活用品も数多い。

中国

内モンゴルの砂漠の緑化のために、苗木を購入し植樹するNGO組織 Green Lifeの活動を支援しています。『雪肌精』を購入いただいたお客様の中から抽選で、モンゴルの砂漠で植樹をするツアーを実施し好評を博しています。



香港

地球規模での環境保全に取り組むWWF香港の純銀会員として登録し、寄付を行いました。
※現在はWWFの会員として登録されていません。



台湾

台湾随一の国立公園、墾丁国家公園の環境保護活動を支援しています。サンゴが成長している付近で、3回の海洋清掃活動を行いました。ダイバーが海中のサンゴや岩に巻きついたゴミを除去することで、海洋生物が生活しやすい環境を取り戻すことに貢献しています。



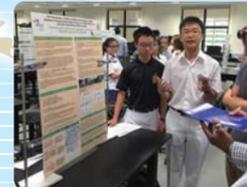
墾丁国家公園管理处職員
陳 榮祥 氏



コーセーの皆さんに海の清掃を支援していただき、大変感謝しています。海底にある大量のごみを除去するのは大変な労力が必要です。これからも一緒に海の保護活動をするのを期待しています。

シンガポール

政府組織であるNational Parks Boardへの協賛を行っています。2014年からは当社の協賛により、同国内10校の中高生が海洋環境調査を始めました。沿岸域に生息する貝類を分析し、海洋生物への化学物質の蓄積を追跡調査していきます。



2014年度の活動実績



Close up 2

東日本大震災復興応援

「fukushima さくらプロジェクト」 で福島・東北を応援

コーセーは、2013年より東日本大震災の被災地への復興支援の一環として、「fukushima さくらプロジェクト」に参加しています。3年目を迎えた2015年4月には、当社ならではの取り組みである化粧品のキャンペーンで育成した新種のさくらの苗木を、初めて会津若葉幼稚園（福島県会津若松市）に寄贈しました。少しずつ着実に、桜と笑顔が広がっています。

新種のさくらが全国に広がるまで

2013年



3月 苗木の増殖
芽の出た枝を採取して増やす「接ぎ木」で増殖させ、株分けしていきます。



7月 専用ハウス
郡山市内の福島県林業研究センターで大切に育てます。



12月 福島県内での植樹
震災後1000日を機に福島県会津若松市鶴ヶ城にて植樹イベントを実施。

2014年



2月 福島県外に初めての植樹
福島県から京都市の同志社大学に初めて県外に贈呈されました。その後植樹を希望する団体・個人に苗木を順次贈呈。（NHK福島局、JRA福島競馬場、福島県白河市、兵庫県豊岡市、出石、京都府庁旧本館 など）

2015年



4月 当社から初めての苗木贈呈
福島県会津若松市の会津若葉幼稚園（福島県会津若松市）にさくらを贈呈、植樹式を実施しました。園児たちの夢や希望を見守り続けるシンボルとしての願いがこめられています。



5月 植樹から1か月後、根付いたさくらの木から、緑の葉が元気に広がっていました。

全国で開花

2014年度の取り組み ① 鶴ヶ城プロジェクト マッピングに協賛

2015年3月に、3回目となる「鶴ヶ城プロジェクトマッピング」が開催されました。福島県会津若松市の象徴「鶴ヶ城」の城壁に、大輪の花をつけたイメージ映像が投影され、多くの人々に「未来」へ向けた強いメッセージを届けました。同時上映の「夢の春」デザインコンテストでは、福島県の小学6年生がデザインした「夢の春」100作品が紹介されました。年を追うごとに県外からの来場者が増え、観光産業の復興支援にもつながっています。



2015年テーマ「あかべこものがたり」

2014年度の取り組み ② 化粧品を通じて 新種のさくらを拡大

2013年より、化粧品の販売を通じてキャンペーンを実施、新種のさくらの増殖を支援しています。2015年1月からのキャンペーンでは、昨年に引き続き、当社の代表ブランド『エスブリーク』と『コスメデコルテ』に、新たに『プレディア』を加えました。期間中は対象商品の外装箱に共通ロゴを表記して告知活動を行うだけでなく、お買い上げ金額の一部を増殖費用として寄付しています。お使いいただくたび、福島・東北への想いを馳せていただければ、対象商品は容器やパフをはじめ、カラー、香りに至るまで新種のさくらをイメージしました。

2014年度の取り組み ③ さくらが見守る場所で広がる 元気な子どもたちの声

当社がさくらを贈呈した会津若葉幼稚園には、福島県内の他の市町村から避難している子どもたちも在園しています。植えた苗木の根元には、園児たちが描いた「将来の夢」を入れたタイムカプセルも埋められました。さくらの生長とともに園児たちの夢も大きく広がっていくことでしょう。今後も当社から、幼稚園や保育園などにさくらを贈呈する予定です。



根元に埋められたタイムカプセル

VOICE



コーセー化粧品販売(株)
福島支店長 石黒 健二

東 日本大震災から4年が経ち、東北・福島が震災で失ったものは計り知れませんが、人と人の絆は震災を通じてより深まりました。新種のさくらの広がりを通じて、全国の皆様が被災地の活動を応援してくださっていることを実感しております。未来を担う子供たちの健やかな成長を祈るとともに、「化粧品の力」を通して、被災地の方を笑顔にするように取り組んでいきます。

01

美の創造企業として、 安心・安全を最優先に

コーセーグループは、化粧品を中心とする美の創造企業として、いつまでも美しくありたい・健やかでありたいというお客さまの願いにお応えし、お客さま一人ひとりの生活がより充実したものになるように支援していくことが使命であると考えています。

最良の品質を目指して

コーセーは1946年の創業時より、原材料の調達から製造まで品質管理を徹底し、最良の化粧品づくりに情熱を注いできました。2010年度に定めた『コーセー品質方針』では、「お客さまの満足が私たちの願いです」というメッセージを核とし、広く深い意味での“品質”を磨いています。

コーセー品質方針

「お客さまの満足が私たちの願いです」

- 良い商品で安心と安全を提供します。
- 魅力的な商品や最良の品質を追求します。
- 正しい情報をお届けし、お客さまとの信頼をつくれます。
- お客さまの声を聞き、より良い商品づくりに活用します。
- ものづくりやサービスの基本である法規制を遵守します。

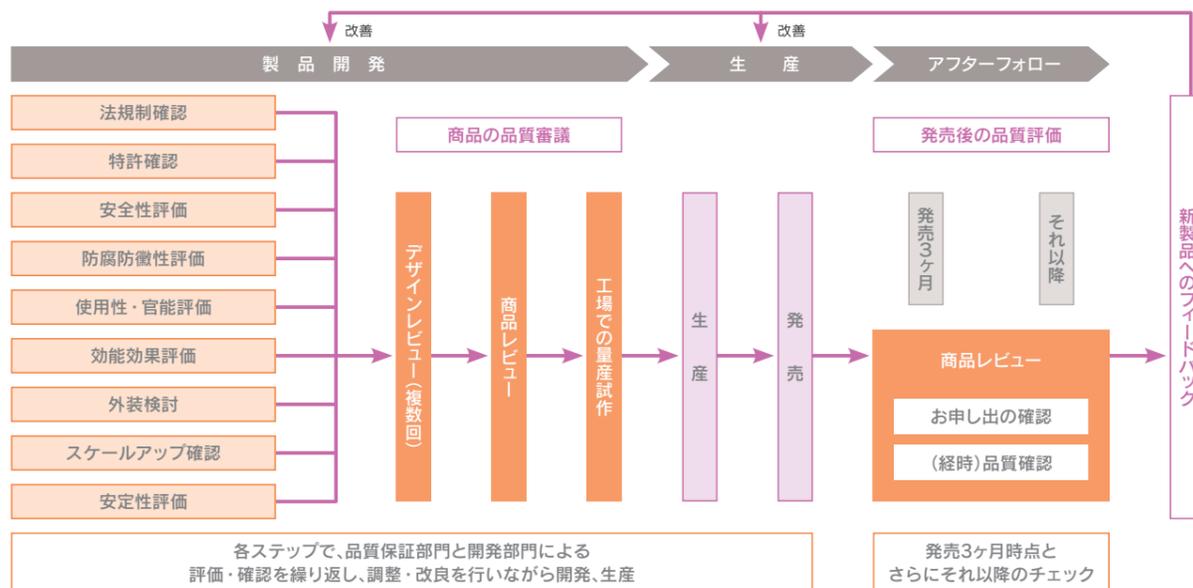
安心してお使いいただくために

肌に直接つけて使用される化粧品は、その使われ方も、環境もお客さまによってさまざまです。どのような場合でも、お客さまに安心してご使用いただけるよう、コーセーでは独自の高い安全基

準を設けています。原料をはじめ、容器・パッケージに至るまで安全性を確保するため、各ステップで、品質保証部門と開発部門による評価、確認を繰り返し、安全が確認されたもののみを

採用しています。また最終製品においても、お客さまの使用状況を想定しながら厳格な試験を実施し、十分に安全性を確認したうえで、商品を市場に送り出しています。

コーセーグループの新製品開発過程における品質保証



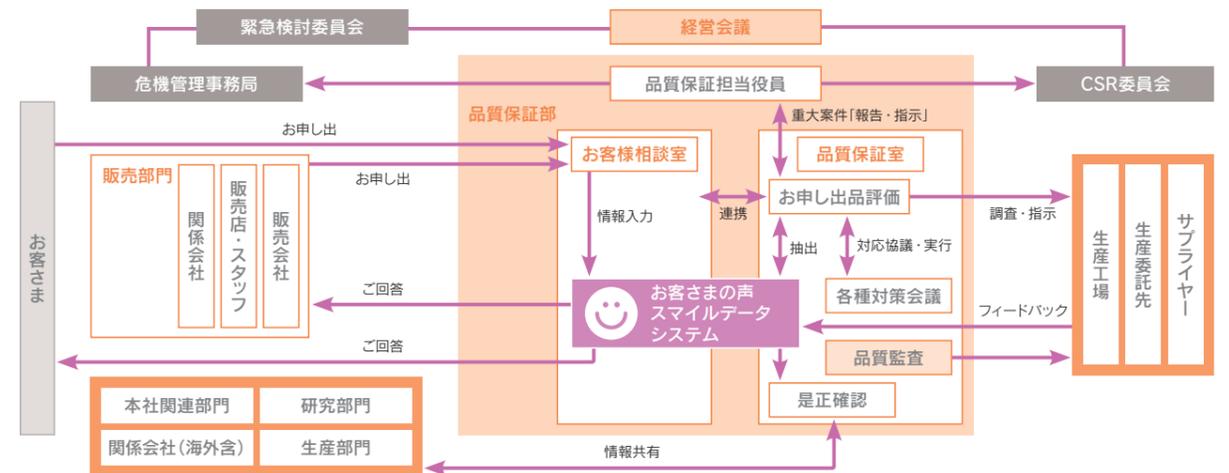
お客さまの声に真摯に応える体制

コーセーグループでは、お客さまと私たちとの関係は、商品を製造したその時から既に始まっていると考えています。このため、同時期に製造した同じ化粧品をすべて保管し、常にその安

全性を確認しながら品質保証していく活動を続けています。また、お客様相談室を設置してお客さまからのお問い合わせに真摯にお答えするとともに、お客さまからのお申し出内容を有用情報

としてスマイルデータシステムへ集約します。スピーディに社内へ共有化し、品質やサービスの向上へ生かすことで、お客さまのさらなるご満足と信頼獲得を目指しています。

コーセーグループ 商品の品質保証体制



予期せぬ事故への対応

万が一、予期せぬ事故やトラブルにより製造物責任や事件性を否定できない品質問題が発生した場合、品質トラブル情報はコーセーグループ、どの部門

からも直ちに品質保証部門に情報集約される仕組みになっています。品質保証部門はその情報の重篤レベルをPL・健康被害・被害の拡大性等の観点から

判断し、重大性のある品質トラブルは直ちに危機管理事務局に報告し、経営トップをはじめとした全社の機関で事故への対応・措置を行います。

さらなる安全と品質のために

化粧品に求められる品質は、お客さまのニーズや科学技術の進歩、市場要因、社会的環境などにより変わってきますが、その変化を先取りし、求められる品質をいち早く実現するために、ISO(国際標準化機構)化粧品専門委員会や、安全性評価のための新しい試験法開発に関する厚生労働科学研究への参画など、幅広い活動を積極的に行っています。

また、コーセーは、動物実験の廃止はグローバル社会の重要な要請事項と受け止め、早期の実現を願って、90年代から動物実験代替法の開発に取り組んできました。代替法学会に継続的な協賛を行うとともに、業界や産学官と連携しての取り組みに積極的に参画し、代替法の普及と進展のために、なお一層の努力をまいります。

コーセーグループは、安全性を最優先としながら、動物実験を行わない方針で化粧品(医薬部外品を含む)の開発を進めています。

これまでの化粧品開発の実績により蓄積してきた膨大な安全性データを活用するとともに、代替試験法やヒトによる各種試験によって、独自の基準で化粧品の安全性確保を行っています。外部委託を含めて動物実験を行わない方針で、今後も引き続き化粧品開発を行ってまいります。

※万一、社会に対して安全性の説明責任が生じた場合や、一部の国において行政から求められた場合を除きます。

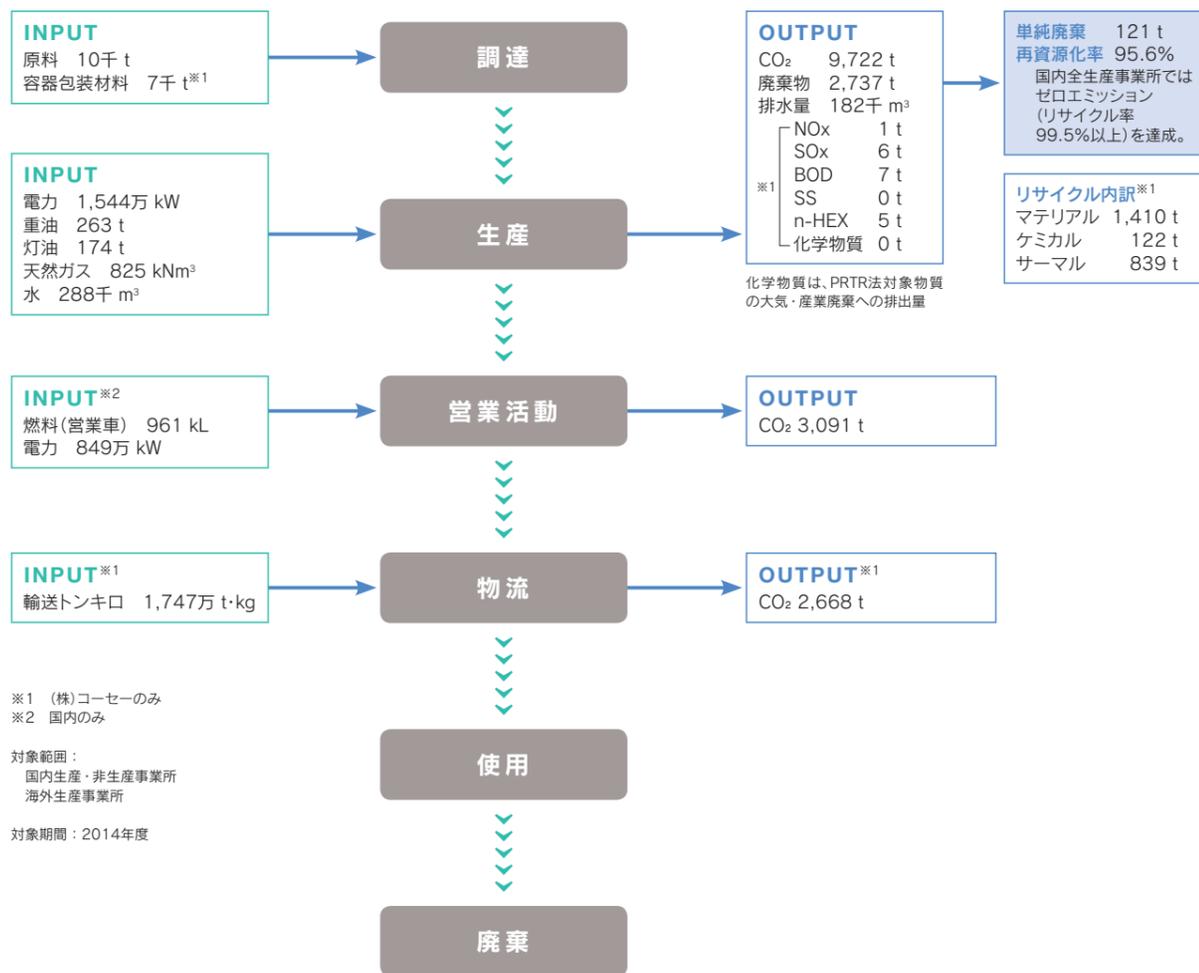
環境負荷低減のための活動

環境ワーキンググループと関連会社の株式会社アルピオンとで実施した、環境ミーティングで、データの連携を深めるための情報交換を行いました。また、海外の生産拠点である、中国にある高絲化粧品有限公司の杭州工場、台湾高絲股份有限公司の新竹工場についても、CSR委員会による環境データの収集を

開始しました。こうして得られたコーセーグループの生産に関わるCO₂排出量は昨年のデータと比較して、売上高の増加(9.4%)に伴い9,040tから、9,722tへ7.5%増加しました。廃棄物量は4.9%増加、水投入量は2%減少しました。今後は収集データの拡充を進めるとともに、CO₂

量、水使用量、廃棄物量の3指標をベースに、グループ全体での環境負荷の低減を図っていきます。なお、これまでどおり環境会計については、国内製造部門の環境データをまとめ、webにて公開しています。

環境負荷全体像



生産部門におけるCO₂削減の取り組み

コーセーは環境への影響に配慮し、2000年度に群馬工場にてISO14001の認証を取得し、2002年度に狭山工場、2003年度に関係会社工場でも認証を取得し、生産部門全体で省エネ化を推進しています。2011年には、群馬工場にエネルギー使用効率を高めるコージェネレーションシステムを導入しました。天然ガスを利用して自家発電

するとともに、原動機から出る排熱を化粧品製造に有効活用することで環境負荷を低減しています。ほかにも、工場の使用電力は、空調負荷が高まる夏季にピークを迎えることから、工場棟屋根へのスプリンクラーや屋根遮熱塗装、窓への遮光ネット等を整備し、室温上昇の抑制に努めています。



2012年から、天然ガスを利用した環境にやさしいコージェネレーションシステムを稼働

環境負荷に配慮した容器・外装設計

コーセーでは、環境に配慮した商品開発や改良を常に模索しています。商品の紙製一個箱や、化粧品の使い方などを使用する能書、パンフレット、ダンボールなどには、基本的に再生紙を使用しています。さらに、能書を箱の外側、もしくは内側に直接印刷し、別紙を添付しない工夫をしています。

ポンプ付け替え容器や詰め替えパウチ容器の採用も、スキンケア・ヘアケア商品を中心に容器材料使用量の削減に役立っています。2014年には、スティックタイプの口紅「インフィニティセラムルージュ」でも、レフィルとホルダーを別売りにしました。

当社の中でも販売数量の多い「雪肌

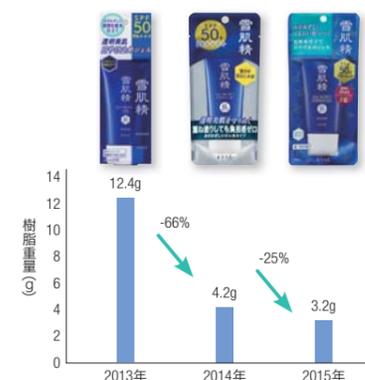
精」のサンプルテクトジェルでは、昨年一個箱からフィルム包装を採用することで大幅に樹脂量を削減しましたが、設計を見直すことで、今年もさらに低減しました(図)。この包装方法は、メイクアップブランド『ファシオ』等にも広く活用しています。

容器・外装は中身を安定に保つ機能とともに、化粧品の情報や世界観を伝える役割を担っています。今後も、お客さまのご要望や市場のニーズに配慮しながら、環境にやさしい商品の開発を進めていきます。



ホルダーを別売りにした口紅を開発

包装に使用した樹脂量の変化



オフィスからのCO₂削減

生産部門だけでなくオフィスにおいても、省エネルギーに取り組んでいます。例えば、コーセー本社では、環境省の推進しているCOOL BIZを毎年実施し、室内の冷房を抑えています。また、オフィスの照明を省電力化するため、ほぼすべてをLEDに交換しました。朝、出

社した従業員が自分のいるエリアのみを点灯するルールとし、不在時は人感センサーの導入により自動的に消灯するため、消し忘れに効果を発揮しています。また、パソコンについては、10分間動作がないと自動的にディスプレイが消灯するように設定しています。



オフィスの照明をLEDに交換

03

CSRサプライチェーン マネジメントの実践

コーセーは創業よりお取引先との関係を重視し、「共存共栄」を目指す経営の実践、お客さまへの親切で丁寧な対応と一緒に実現させていくことを目指してきました。この姿勢は経営環境が変化した今でも変わりなく、受け継がれています。

サプライチェーンにおけるお取引先との連携

安心・安全で高品質なものづくりは、当社だけで実現することは不可能であり、全てのお取引先との協力関係によって成り立っています。今後の企業活動の順調な拡大のためにも、国内外の多岐にわたる取引先企業との関係強化は必要不可欠と考えています。

仕入れから販売まで、製品供給の流れ



持続可能な原材料の調達のために

お客さまへ安心してお使いいただける商品をご提供するため、社会や環境に配慮したCSR調達を進めています。化粧品原料や容器の仕入れ先様との相互理解を深めるため、個別の情報交換会を年に2回実施しています。この場では、環境や人権問題等への対応を確認するほか、原材料についてのご提案、市況情報交換などを行います。原材料の品質向上や調達の効率化はもちろん、環境にやさしい植物由来樹脂原料や紙器

類の採用等の仕入れ先様との共同開発へとつながり、相互発展に寄与しています。

年に1度開催している方針説明会では、特に業績や品質向上、環境配慮などに大きく貢献していただいた仕入れ先様へ感謝の意をこめ表彰を行っています。2014年度は60社を超える仕入れ先様に参加頂き、品質向上・環境・CSR配慮への継続的な協力を呼びかけました。



方針説明会の様子

委託生産における連携

社外に生産委託する場合は、国内・海外を問わず、コーセー独自の高い品質基準を安定して満たせることが大前提であり、そのための連携体制を常にとっています。新規に生産委託する場合には、衛生的な生産のため、GMP基

準に照らして工場内の環境や工程に関する監査を行っており、また継続して、定期的な品質監査も実施しています。高品質維持のための連携を通じ、生産委託先企業との相互発展を図っています。



全ての商品に高い品質基準を設定しています

物流の取り組み

コーセーでは事業構造改革の一環として、これまで自社運営してきた国内の物流業務を2011年10月より株式会社日立物流および日立物流コラボネクスト株式会社へすべてアウトソーシングしています。これにより経営効率の向上を図るとともに、物流業務の品質向上、物流ニーズ変化への迅速な対応、物流の合理化による環境負荷の低減を実現しました。同業他社とのチャーター便共同利用や全国物流拠点への配送便の積載効率向上など、格段の効率化が進んでいます。なお、温室効果ガス(CO₂)排出量については、コーセーグループの環境負荷として2014年度の報告より

合算しています。

また、1997年に発足した「コスメ物流フォーラム21」では、化粧品メーカー6社の物流部門が討議し、日本各地(北海道・東北・北陸・中部・中国・四国・九州・沖縄)で化粧品の発注・配送の共同化を実現しています。この共同配送をおこなうことにより、販売店様の荷受け作業の効率化および納品車両運行回数の削減によるCO₂排出量の削減に貢献しています。更なるエリア拡大について現在も検討を続けています。



高品質かつ効率的な物流を実現

販売店様との共存共栄

コーセーグループでは、創業以来、販売店様に直接商品を卸すだけでなく、美容スタッフの派遣や店頭什器の提案など、販売店様の経営をサポートするという密な連携体制を築いてきました。販売店様同士の全国組織「コーセー会」や当社の役員と販売店経営者様との交流会などを通じ、当社と販売店様の絆を深めています。流通の多様化が進み、セルフ販売の化粧品を中心に代理店様を介したお取引も増えていますが、共存共栄の経営という精神は変わっていません。

また、店頭でのカウンセリング販売を実践していただくために、販売店様やその従業員の方々を対象としたセミナーも多数実施しています。販売店様向けセミナーでは、それぞれのブランドに対する理解を深める導入研修をはじめとして、カウンセリングスキルのさらなる向上を目指し、キャリアを積むためのス

キルアップ研修を定期的で開催しています。2013年度からは、当社と取引のある企業・販売店様へ入社された新入社員の方々を対象に、社会人としてのマナーから化粧品従事者としての美容に関する基礎を学ぶ教育をサポートし、早い段階でのプロフェッショナル育成を応援しています。

また、当社にとって販売店様は地域との関係を深めるための大切なパートナーでもあります。一例として、販売店様と当社が合同で地域の高齢者の方々にメイク講習を行うという取り組みがあります。コーセーグループは今後もお取引先との信頼関係を築き、確かな美容スキルでお客さまの気持ちに寄り添う接客の追求に努めていきます。



ブランドの特徴を学ぶ導入研修



山口県の販売店様と合同で高齢者の方へのメイク講習を実施

04

人財育成と職場環境の整備に努める

コーセーは社員一人ひとりが成長することで、会社も成長できると考え、社員の向上心と主体性を尊重し、自らチャレンジできる人を積極的に支援しています。労働安全衛生に配慮し、一人ひとりの人権を尊重する職場作りを進め、社員が活躍できる職場環境を整えています。

人権に関する教育・啓発の推進

社員全員が、精神的にも肉体的にも、安全かつ健康に働けるように労働安全衛生へ配慮しています。社員の健康維持のため、労働時間の把握と削減目標を設定しているほか、健康診断の結果や労働実態に応じて産業医ほか産業保健スタッフによる面接指導を実施しています。管理者向けのマネジメント教育の

中では、人権啓発・教育を推進し、人権への配慮についての認識を深めています。



一人ひとりを尊重した職場環境へ

ダイバーシティマネジメントの推進

コーセーグループでは、従業員がライフイベントへ柔軟に対応できるように、仕事と家庭の両立支援を進めています。2015年度より、コーセーとコーセー化粧品販売では、育児や介護を抱える社員も安心して働ける制度を導入し、活躍できる環境を整えています。家族と暮らし、就業を継続できるように考えられています。育児休業は、最長で産後1年半まで取得可能であり、保育園に入所できない場合などに活用されてい

ます。時短勤務制度も整備されており、出産した正社員のうち100%が育児休業を取得し、8割以上がその後復帰しています。育児休業や時短勤務制度を気兼ねなく活用できる雰囲気作りや、子育て中の従業員へのバックアップ体制の充実も推進しています。



本社で実施した親子見学会の様子

障がい者と健常者がともに働く環境づくり

株式会社アドバンスは、化粧品の製造を目的とするコーセーの子会社です。障がい者の雇用を促進する特例子会社として、1992年に化粧品業界で初めて、全業種では25番目の認可を受けました。現在は、化粧品の充填、包装、

仕上げ加工に関する業務を中心に行っています。建物や機械は障がい者の方でも安全に作業できるように設計され、現在、全従業員数の約3分の1にあたる障がい者が活躍しています。



車いすでも作業がしやすい設計

人材育成プログラム

コーセーには、自ら学ぶ人を応援し、自己啓発を促す風土があり、通信教育補助や教育基金制度が整備されています。入社時、3年目、30歳時には、部門横断的な「人材開発研修」があり、社会人基礎力を高めるとともにワークライフバランスについて考える機会となっています。そのほか「部門別研修」では、販売会社における営業研修のように、各事業部ごとに実務を学ぶ機会を設けています。

また、2013年にスタートした、将来のリーダーとなる人材を育成する「ビジネスエデュケーションカレッジ

(BEC)」では、化粧品の新しい価値提供の検討と立案というプロジェクト形式の研修を行います。さまざまな部署から選抜された社員が、目的達成に求められる能力を実践的に習得します。



新人研修では働くことについて一から学びます



ビジネスチャンスの機会やリスクを分析し、討論するBEC

美容スタッフの技術力向上のために

お客さまと接する美容スタッフは、知識や技術の習得に加え心をこめた対応で、化粧品に更なる価値を付加する大切な役割を担っています。2014年度は美容スタッフ1,177名を契約社員から正社員に登用しました。これにより従来は半分程度だった美容スタッフの正社員比率が約9割にまで増加しました。2015年度からは、厚生労働省の認可を得た「メイクレッスン検定」を整備し、技術力の更なる向上を図ります。

美容スタッフが毎日の店頭活動で身につけた、メイクや接客の技術を総合

的に競う場が、1975年に始まった全国コンテストです。2011年度からは「グローバルEMBコンテスト」として、対象を海外にも拡大。2014年度も、国内外から最終選考まで勝ち残ったメンバー17名が、その技術を競いました。



授賞式の様子



実技審査



EMBコンテストの予選を通過した17名

VOICE



第4回グローバルEMBコンテストグランプリ受賞

コーセー化粧品販売(株) 中部支店
岡本 香織

お客さまが笑顔でお帰りになることを日々心がけていると、自然と多くのことを学ぶように思います。3回目ですとつつかんだグランプリは、周りの方々の支えあつてのこと。今後も技術を磨いて多くのお客様の笑顔を引き出し、学んだことは後輩達にも伝えていきたいです。

地域社会との調和と共生をめざして

コーセーグループは、地域社会との調和と共生を重要な課題としてとらえ、産学連携や化粧品を通じた社会貢献を進めています。今後も社会で必要とされる企業であるために、積極的に活動の場を広げ、いち企業市民として持続可能な社会を築いていきます。

産学連携による最先端の皮膚科学研究

コーセーは新たな事業領域への取り組みとして、「医療(美容医療)分野との関係深化」を掲げ、QOL(Quality of Life)向上に向けた、新規分野の研究を進めています。慶應義塾大学医学部皮膚科学教室内に開設した「コーセー スキンケア・アレルギー予防医学寄附講座」は2年目を迎え、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患をスキンケアにより予防するというテーマに対し、積極的に取り組んでいます。この講座では、

皮膚のバリア形成メカニズムに関わる重要な因子を探索しており、アレルギー疾患に悩む方々の期待に応えられるよう研究を深めています。

本年5月には、日本皮膚科学会総会で、紫外線や可視光線等によって症状が出る難病をテーマとしたセミナーを開催しました。皮膚科医による2題の講演では、疾患の特徴や発症を防ぐための遮光方法、日やけ止めやファンデーションによる防御の有効性について述べら

れました。コーセーでは今後も、従来の化粧品の範囲を拡大するため、研究と人材の育成を続け、社会へ成果を発信していきます。



化粧品の可能性を拡大する研究を目指しています

女性農業者の美と健康をサポート

農林水産省が推進する官民連携の「農業女子プロジェクト」に参画しています。昨年は、株式会社タニタと共同で、農業女子の健康と美を支援する「農業女子プリリアントボディー化計画」を実施しました。本計画では、「健康と美」をテーマに20名の女性農業者が適度な脂肪と筋肉のバランスが取れ、肌も髪も健康

な「プリリアントボディー」を目指しました。当社は、屋外作業時の紫外線や乾燥などから肌を守る実践的なスキンケアやヘアケアに関するビューティセミナーを実施。3ヶ月間のプログラムを経て、ビューティーアワードの優秀者3名を決定し、表彰しました。



ビューティセミナーの様子

まんが「大研究!化粧品のちから」の制作に協力

株式会社講談社ビーシーが制作している「まんが 社会見学シリーズ」の制作に協力しました。次世代を担う子供たちに、化粧品の役割や健康な肌の大切さについて楽しく学んでほしいという願いから制作されたもので、全国の小

学校と国公立図書館へ無償で配布しました。一般の方にも別途配布しておりますので、ご興味をお持ちの方はお問い合わせください。(コーセー広報室 pr@kose.co.jpまで)



「大研究!化粧品のちから」

スポーツ振興へのさまざまな取り組み

コーセーは「スポーツをするときも美しく」というコンセプトのもと、化粧品も向上する独自の撥水技術を開発。1981年に業界初のスポーツ専用化粧品ブランドを発売しました。現在は、よりファッショナブルなブランドに進化した「ファシオ」として多くの方から愛されています。こうしたスポーツへの思いから、当社では芸術性の高いスポーツの発展をさまざまな面で支援しています。

2006年4月には、シンクロナイズドスイミング日本代表(マーメイドジャパン)のオフィシャルコスメティックパートナー契約を行い、同年日本スケート連盟 オフィシャルパートナー契約を結

びました。シンクロナイズドスイミングでは、演技だけでなく、各選手のメイクも同調していることも重要です。テーマに合ったメイクデザインの提案はもちろん、顔立ちや個性の異なる選手たちを似せて見せることを考慮した技術指導を行っています。

» スペシャルサイト
「KOSÉ SPORTS BEAUTY NEWS」
http://www.kose.co.jp/jp/ja/kose_sports/index.html



ファシオ「パワフルカールマスカラ」



芸術性の高いスポーツを積極的に支援



大会では選手自身がメイクアップするため、事前に講習をしています

化粧品学(Cosmetology)の発展に貢献

公益財団法人コスメトロジー研究振興財団は、1990年にコーセーの創業者である小林孝三郎が化粧品学(Cosmetology)発展のために設立した機関で、優れた研究を行う研究者や研究機関を助成しています。2014年度は32件の研究課題と1件の学術集会に対して助成金を贈呈しました。

※本財団は内閣府より公益認定を受け、2011年10月に公益財団法人へ移行しました



さまざまな研究分野のスペシャリストが集まった表彰・贈呈式

美容専門学校から未来を担う人材を育成

コーセーの創業者は、美容の専門家を育てることも重要であると考え、1968年に「コーセー高等美容学校」を設立し、自ら初代校長を務めました。以来47年間に3,800人以上の人材を輩出しています。1997年からは「東京ヘアメイク専門学校」となりましたが、2016年度より「コーセー美容専門学校」に名称変更します。「人づくりを大切に」という理念のもと、美を追求するプロとして活躍できる人材育成に取り組んでいます。



ヘアデザイナーコース



ビューティデザイナーコース

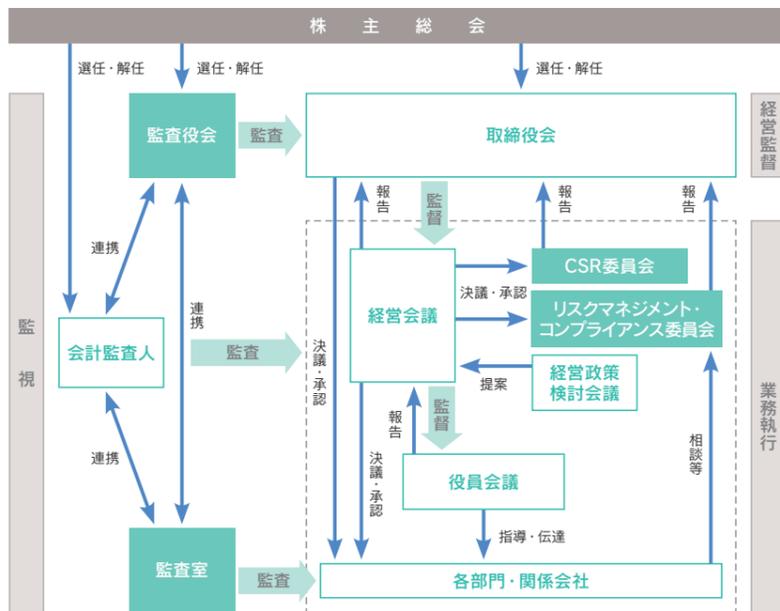
CSRマネジメント

コーセーグループ社員は正しいことは何かを見つめながら「正しきことに従う心」をもって、倫理に即した行動に徹します。法令・社会的規範を遵守し、関わる全ての人々の人権を尊重し、お客さまをはじめ広く社会から支持される、誠実で誠意のある企業であり続けることを目指しています。

コーポレートガバナンス体制の構築

コーセーグループはすべての役員、従業員が高い企業倫理観に基づいたコンプライアンス経営を実践するとともに、ステークホルダーとの共生を重要な経営課題ととらえ、透明性、公正性の高いコミュニケーションを図っています。そのため、取締役会と監査役会により業務遂行の監督・監視を行う監査役制度を採用しています。また業務遂行の効率化のため執行役員制度を導入、経営会議を設置して経営の重要事項を協議しています。なお、リスク対応とコンプライアンスの実践・確保のために「リスクマネジメント・コンプライアンス委員会」を、CSRマネジメント全般のために「CSR委員会」を設置しています。また一部の株主や利害関係者の利益に偏ることのない、社外取締役1名、社外監査役2名を選任しています。

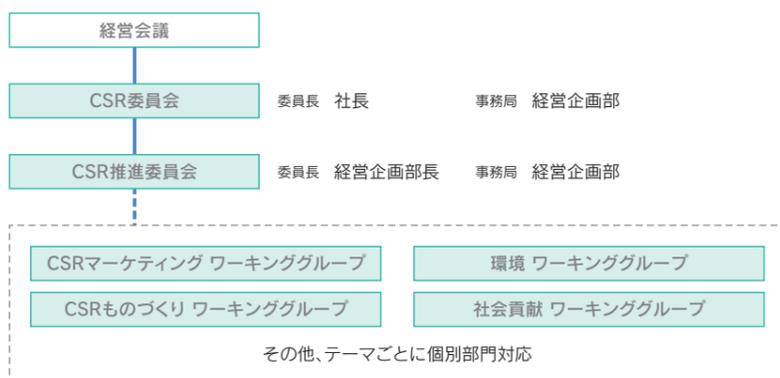
コーポレートガバナンス体制図



CSR推進体制

コーセーでは、1997年に「地球環境委員会」を組織し、生産現場で廃棄物を実質的になくす「ゼロエミッション」や、非生産部門を含めたエコ活動を進めてきました。2013年度からは、社長を委員長とする「CSR委員会」および実務推進を担う「CSR推進委員会」をスタートし、企業メッセージ「美しい知恵 人へ、地球へ。」に即したCSR活動を進めています。

コーセーCSR推進体制図



リスクマネジメントとコンプライアンスの啓発

2005年より配布している「コーセーグループ行動指針」では、コーセーで働くすべての従業員に対し、法令を遵守し、社会規範を守り、常に誠実で良識ある判断と行動をとるよう明文化しています。本指針は、人事研修の一環として、国内の新入社員への教育資料として使うほか、海外でも5言語に翻訳し、

海外現地従業員へ配布しています。定期的なコンプライアンス研修も継続して行っており、2014年度は、個人情報保護と漏えい防止について、国内主要グループ11社で2,571名、海外8拠点の現地従業員308名がeラーニングで受講(対象者の100%、休業者除く)したほか、生産部門で働く約450名

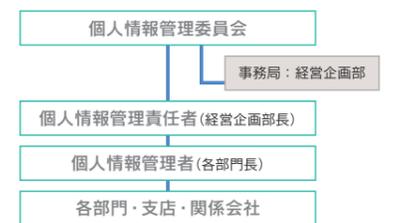
はテキストで受講しました。全国の美容スタッフ約5,000名に対しては、年6回発行の教育用印刷物に、個人情報等の取扱いに関する身近な題材を取り上げ、継続的に啓発教育をしています。

情報セキュリティ

IT化の進展とともに、個人情報保護対策の重要性が高まっており、リスクマネジメントにおける重要な課題としてとらえています。2014年度は、2005年に策定した個人情報保護管理規程を改定し、より実態に即した内容としました。具体的には、個人情報管理者の設置に

よる管理体制の強化、個人情報データ保有台帳の作成、管理マニュアルと漏洩報告経路の改定と徹底を行いました。個人情報の適切な管理について周知・徹底を進めています。

個人情報保護管理体制



CSR活動目標決定プロセス



社外からの評価

今回、当社にとって重要なCSR課題を選定し、活動テーマや中期目標をまとめました。課題の洗い出しや目標の策定には、さまざまな部門の多くの社員が参加しており、作成のプロセス自体が、社内へのCSRの意識付けと各部門の行動につながるCSR活動ともいえ、高く評価できます。今後大切なのは、これを着実に実行していくことです。具体的な活動計画を立て、実績を検証・評価し、PDCAを回しながら、活動を

続けていくことが重要です。各課題の関係性も考えながら、部門間での情報共有や連携を図りつつ活動を進めていくことが求められます。今年で7年目を迎える「SAVE the BLUE」プロジェクトは、コンセプトが明確な、まさにコーセーらしい活動といえます。今後も、コーセーグループとして、「美しい知恵 人へ、地球へ。」を実現する活動を展開されていくことを期待します。



株式会社インテグレックス 代表取締役社長 秋山 かね氏

慶應義塾大学経済学部卒業。ファイナンス修士。2001年に、SRI(社会責任投資)およびCSRの推進を行う株式会社インテグレックスを設立、代表取締役に就任。

コーセーグループ CSR活動目標一覽

ステークホルダー	重要課題	活動テーマ	中期目標	2014年度実績	2015年度アクションプラン	活動の範囲	ISO26000
お客様	美の創造企業として、安心・安全を最優先に高品質な商品・サービスを提供します	安心・安全・品質	グループ全体の品質保証体制の強化	国内外グループの品質保証システムの運用ルールを確立するとともに、リスクランクと対応を明確化し一元管理とした。	モノづくりの多様化に対応した全社品質確保のための仕組みづくりの強化と品質保証情報の集約、さらなる有効活用。	コーセー、一部関係会社	消費者課題
		グループ全体の安全性保証体制の強化	●製品の安全性に関わるお客さまのお申し出に対する多面的な確認と迅速対応の仕組みづくりを実施。 ●動物実験廃止の方針を公表。日本動物実験代替法学会での受賞など動物実験代替法研究を継続推進。	●新規流通ルートや海外など、拡大するビジネス領域に対応するための安全保証体制の整備。 ●動物を用いない安全性評価業務体制の整備や、粧工連、専門学会での活動推進。			
		美容医療・予防医学・健康増進分野との関係深化とQOLの推進	●大学・医療機関との共同研究を推進し、専門学会にて成果公表。 ●日本美容皮膚科学会 ポスター賞を受賞。	●学会・論文発表による研究成果の公表による予防医学等への貢献。 ●ポルフィリン症患者への継続的な化粧品提供によるQOL向上の検討。			
		お客さま視点の研究・商品開発	化粧品を通じて、お客さまの期待を超える高いご満足を提供する	「お客さまに一步近づき」を共通スローガンとして、ものづくりや接客を通じたさらなる顧客満足のための事業活動を実施。	「お客さまにもっと近づき」をスローガンに、お客さま視点での多様性に配慮した、価値ある商品づくり。		
		ユーザビリティの向上に配慮した商品パッケージの開発推進	使用性に配慮した容器開発、ユニバーサルデザインの採用、カラーバリエーションへの配慮、商品への点字対応等を継続。	●あらゆる方に使いやすい商品・パッケージの探求の継続。 ●目の不自由な方へ、点字付き商品の拡大と、汎用の化粧品識別点字シールの無償配布開始。			
お客さまからの期待や要請に応える対応力の向上	お客さま相談室員の対応力向上教育を充実。(電話対応コンテストへの参加等)	「お客さま対応ナレッジ」を、関連会社等とも共有するシステムを構築し、多様な顧客接点で活かす。	お客さま相談室、コーセー、関係会社				
お客さまとのコミュニケーション	お客さまの声を広く集め、活かすとともにフィードバックする仕組みづくり	●「よくある質問・お問合せ」に商品改善事例の紹介コーナーを開設。(お客さま相談室) ●ウェブサイト「コーセーアイデアボックス」を新設。(商品開発部)	●お客さまの声を収集と社内共有による、商品、サービスの改善を推進。 ●コーセーWEBサイト(商品情報)にお客さまとの簡易コミュニケーションコーナーを新たに設置。(お客さま相談室) ●「コーセーアイデアボックス」の継続運営と商品開発への反映。(商品開発部)	お客さま相談室 商品開発部			
環境	生物多様性や環境保全に配慮し、省資源・省エネルギーに取り組みます	温暖化ガス排出量の把握と削減	CO ₂ 排出量の把握範囲を国内製造拠点から、オフィス・物流・販社車両(国内)、および海外製造拠点に拡大。	CO ₂ 排出量の把握事業所の範囲を拡大する。	グループ全体、物流委託先	環境	
		水資源投入量および排水量の把握と削減	水資源投入量・および排水量の把握範囲を国内の主要製造拠点から、国内全製造拠点と海外製造拠点に拡大。	水使用量・排水量把握の拡大。	グループ全体		
		廃棄物量の把握と削減	廃棄物量の把握範囲を国内製造拠点から、海外製造拠点にも拡大。	●国内生産における廃棄物の再資源化におけるマテリアルリサイクル率の向上。 ●廃棄物量の把握事業所の拡大。	グループ全体		
		商品容器・包装における環境配慮	環境負荷に配慮した容器・外装設計を推進。また環境に配慮した商品を定義し、その比率を把握した。	環境負荷削減活動の継続的推進および強化。	グループ全体		
		生物多様性の保全	「SAVE the BLUE」プロジェクトの継続と拡大	「雪肌精」商品の売上の一部を自然保護活動に活かす「SAVE the BLUE」プロジェクトを日本とアジア6の国と地域で引き続き実施。	展開国を拡大し、各国のお客さまとともに地球の自然保護活動の輪を広げる。		コーセー、海外(アジア)
取引先	創業からの「共存共栄」を継承して、サプライチェーン全体でCSR活動を推進します	原材料調達	●サプライチェーンにおけるCSR調達の推進 ●CSR基本方針に基づく定点観測の実施	●購買方針説明会(年1回)の開催、各取引先との情報交換会(年2回)の実施。 ●国内、海外サプライヤーへのアンケート、評価の実施。「環境」「人権」項目の定点観測。	「CSR調達基本方針(仮)」の着手 (グリーン調達基準書の改定)。	コーセー、一部関係会社	公正な事業慣行
従業員	従業員一人ひとりが能力を十分に発揮できるように、人材育成と職場環境の整備に努めます	人権の尊重	人権教育啓発の推進	コンプライアンス・ハラスメント等相談窓口の活用継続。 ハラスメント、コンプライアンス、メンタルケア、労務・法務管理等の講座を管理職を中心に実施。	コンプライアンス推進とリスク回避を目的として法令等の周知・教育・啓発。(労働関連法令、個人情報保護など) 左記研修の質の向上と継続。	コーセー、一部関係会社 コーセー、一部関係会社	人権
		ダイバーシティの推進	女性活躍推進、外国人登用	●契約社員美容スタッフの正社員化を実施。(1,177名; 正社員比率50%→87%) ●女性活用に向けた取り組みとして営業職のヒアリング等を実施。	●美容スタッフの新卒正社員採用および有期契約社員の正社員登用の推進。 ●育児・介護従事者への支援制度導入。	コーセー、一部関係会社	労働慣行
		障がい者雇用、退職者雇用	●障がい者雇用率の遵守(2.25%)。 ●再雇用の継続推進(85.2%)。	●障がい者雇用率の継続遵守への取り組み。 ●再雇用制度の整備。	コーセー、一部関係会社		
		人材育成	人材の能力向上	●階層別研修、通信教育や、教育基金制度(資格取得支援等)の運用による社員のスキルアップ支援を継続実施。 ●美容スタッフのメイク・接客の技術を総合的に競う「EMBコンテスト」を継続開催。	●社員のスキルとモチベーションを高める各種研修の充実。 ●メイクレッスン検定(厚労省認可)の導入による美容スタッフのスキルアップとモチベーション向上。	コーセー、一部関係会社	
地域社会	地域社会の調和と共生を目指し、化粧品を通じた社会貢献を進めます	学術支援	大学を中心に学術支援	大学との共同研究を推進。慶応大学寄附講座(2013.10~2016.9)、大学病院を始めとした医療分野との共同研究を実施。	慶応義塾大学「コーセースキンケア・アレルギー予防皮膚科学寄附講座」の研究成果中間報告発表を実施。	コーセー	コミュニティ
		スポーツ振興支援	芸術性の高いスポーツを中心とする振興支援(スケート)	日本スケート連盟オフィシャルパートナー。フィギュアスケートではメイク指導等を通じ、特に重要な美と心理面でのサポートを継続。	日本スケート連盟オフィシャルパートナーを継続し、支援の実施。	コーセー	
		芸術性の高いスポーツを中心とする振興支援(シンクロナイズドスイミング)	日本水泳連盟シンクロ日本代表オフィシャルスポンサー、シンクロナイズドスイミング オフィシャルコスメティック パートナー継続。水に強いメイクアップ商品を活用し、選手のメイク指導等を実施。	日本水泳連盟シンクロ日本代表オフィシャルスポンサー、シンクロナイズドスイミング オフィシャル コスメティック パートナー継続。	コーセー		
		文化継承、農業支援	日本の農業支援とPR	農業女子プロジェクト(農林水産省)への協賛。化粧品原料として農産物を利用する企業として、日本の農業、中でも就農女性の活躍支援。	農業女子プロジェクトの協賛継続と、各種活動による農業のイメージ向上PRを引き続き推進。	コーセー	
		東日本大震災復興支援	「fukushimaさくらプロジェクト」を通じた継続的な被災地支援	震災の記憶を風化させないために、主要ブランドの売上の一部を福島発のさくらの苗木の育成費用に。会津若松でのプロジェクトマネジメント開催等の活動実施。(プロジェクト2年目)	「fukushimaさくらプロジェクト」で主要ブランドのキャンペーンを通じた支援継続と、初めての桜の苗木の贈呈と植樹(福島県内の幼稚園)等を通して、被災地福島の応援活動を継続。	コーセー	
ステークホルダー	CSRマネジメント	CSR基盤整備	グループ全体でのCSR基盤と活動体制の整備、社内浸透促進	●ISO26000基本課題抽出ミーティングの実施。 ●活動範囲の強化(取り組み課題の増加、連携部門の増加)。	●ISO26000に基づく方向性の整理と課題抽出の継続実施。 ●創業70周年に向けたCSRマインド醸成推進。	グループ全体	組織統治
		コーポレート・ガバナンス	健全な経営遂行と、社会的信用を保持する為の体制づくり	取締役会・監査役会の適切な運用。国内外を含めた内部監査の実施。	取締役会・監査役会の適切な運用継続。国内外を含めた内部監査の実施と適切な発信。	グループ全体	
		ステークホルダーエンゲージメント	ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話	適切な情報開示、アニュアルレポート、CSRレポート、企業情報サイト等を通じた、株主や投資家をはじめとするステークホルダーへの情報提供。 経営トップ・担当者による、株主市場関係者との対話、個人投資家向けセミナー開催等によるコミュニケーションの実施。	ISO26000に基づく課題および取り組み状況の開示、ステークホルダー・ダイアログの開催。 経営トップ・担当者による、株主市場関係者との対話、個人投資家向けセミナー開催等によるコミュニケーションの実施。	グループ全体 グループ全体	
		コンプライアンス	コンプライアンス活動推進	●国内・海外各々コンプライアンス相談窓口(専用アドレス)を設置、内部通報に対応。 ●新入社員へコーセーグループ行動指針の配布、啓発。 ●従業員にeラーニング等による各種コンプライアンス教育を実施。	●内部通報への対応(コンプライアンス相談窓口への内部通報)に対し適切且つ迅速に対応する。 ●継続的な各種コンプライアンスの教育・啓蒙活動の充実。	コーセー、一部関係会社、一部海外	
		情報セキュリティ	個人情報保護体制と予防策の強化	個人情報保護管理規程の見直し。管理体制の強化とセミナー、eラーニング等による啓発実施。	マイナンバー制への対応、管理運用体制の定期的な監査実施。	コーセー、一部関係会社	